

バビロンの栄華 世界の七不思議を訪ねて

岩本友則

1998年7月3日私は、バビロンの遺跡（イラクの首都バクダッドから約100km南のユーフラテス川沿い）を訪れたのです。そこには、湾岸戦争以後ほとんど訪れることのない外国人観光客を待つ一人の婦人のガイドがいました。ガイドさんは私に「あなたはナボカドナサル（日本語の聖書では「ネブカデネザル」）を知っていますか？」と尋ねるのです。私は、「ええ、聖書のダニエル書を読んでよく知っています」と答えました。そこの北側に「目には目を、歯には歯を」のハンムラビ法典（BC1800年頃）で知られる古代バビロンの遺跡があり、南側には、ネブカデネザルの新バビロニア帝国（BC600年頃）の遺跡が広がっていました。イラクでは、1991年の湾岸戦争まで、バビロンの遺跡を発掘し修復していました。かつて栄華を誇ったバビロニア帝国を垣間見ることができました。そして、ここバビロンには、古代ギリシャの数学者フィロンが記述した世界七不思議の一つである空中庭園がありました。

バビロンの遺跡にフセイン大統領の別荘

遺跡の北のはずれには、バビロンの象徴であるライオンの像（右の写真）が、今もそのまま立っています。この像の向こうの丘の上に、まるで宮殿を思わせる故フセイン大統領の別荘があります。（当時、フセイン大統領は、このような別荘をイラク国内に14箇所に所有していました。今は誰の所有物なのでしょうか？）



バビロンの栄華

下の写真は、バビロニア帝国の栄華を示すイシュタル門です。約3千年前にこのような美

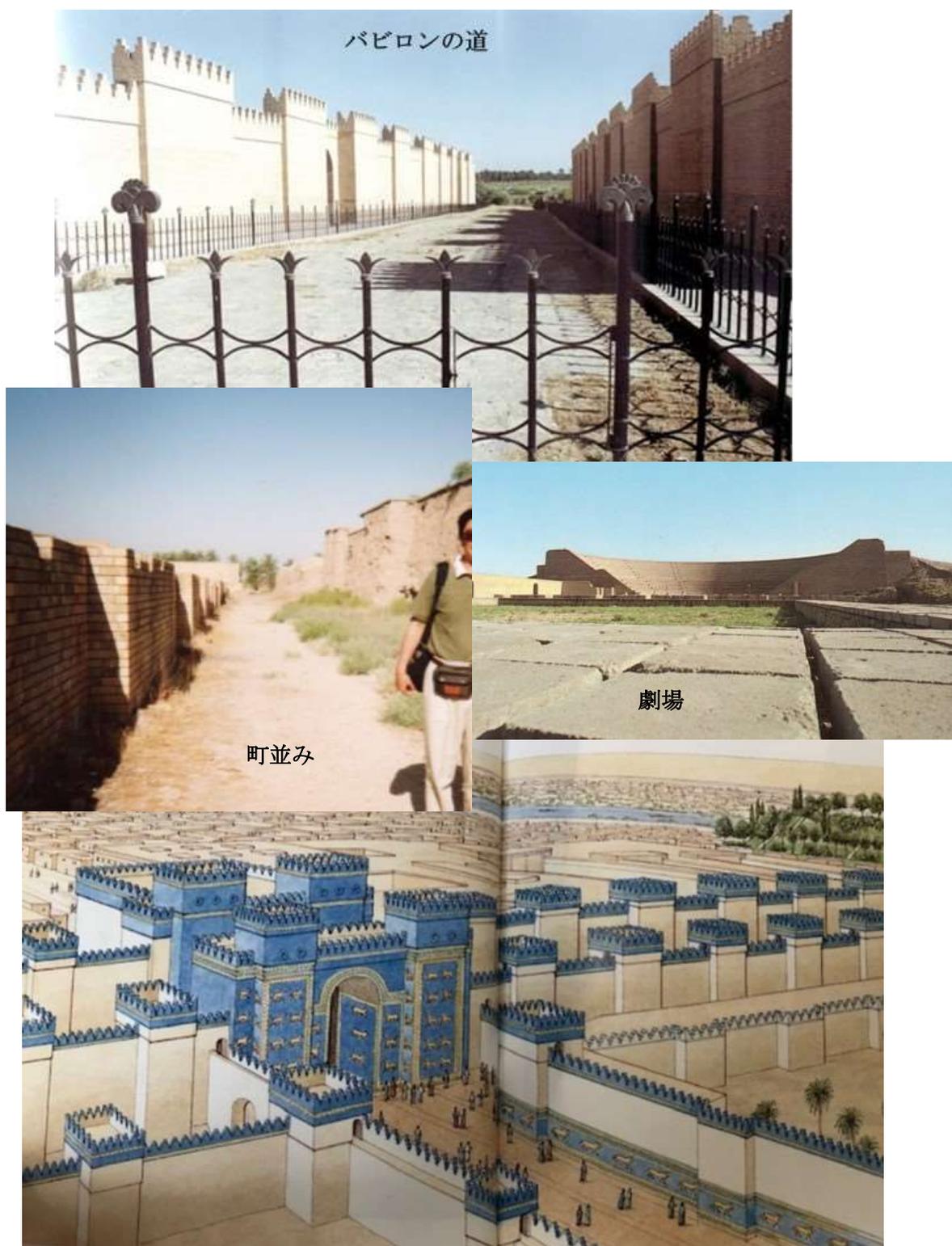


しいカラーレンガを作る技術があった事、本当に驚きです。しかし、この写真のレンガは本物ではありません。本物のイシュタルの門は、ドイツベルリンのペルガモ博物館に展示されています。そしてこの門は、予算の関係から半分の大きさを再建されたものです。実際の門は、倍の高さと幅があったわけです。

次ページにバビロンの栄華を、写真と絵で紹介しましょう。イシュタル門の前はバビロンの道です。 柵で囲まれている道は、約3千年前のものです。その両側の城壁は、高さ半分で再建されたものです。バビロンの道からイシュタル門を通過してバビロンの街に入ります。（次頁の絵「ビジュアル聖書百科」参照）

そして、イシュタル門を通過してバビロンの街に入ると、当時の街並みの面影や、発掘された劇場を見ることが出来ます。(下記の写真参照)

南王国ユダ最後の王ゼデキヤは、両目をえぐり出され足かせをされ、この道を歩いたのでしょう。ユダヤ民族流浪の民化の始まりです。

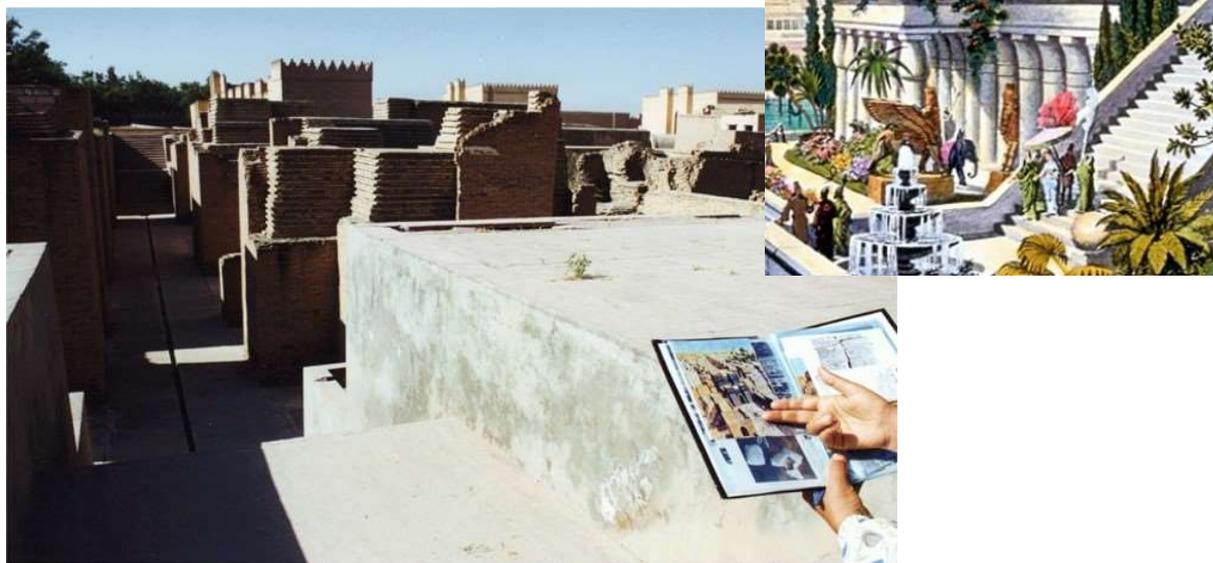


世界の七不思議（空中庭園）

古代ギリシャの数学者フィロンは、①ギザのピラミッド（BC2584～）、②バビロンの空中庭園（BC600～）、③エペソのアルテミス神殿（BC550～）、④オリンピアのゼウス像（BC435～）、⑤ハリカルナッソスノマウソロス霊廟（BC351～）、⑥ロドス島の巨像（BC292～）、⑦アレクサンドリアの大灯台（BC280～）を世界の七不思議と言いました。この中で、現存するものは、一番古く作られたギザのピラミッドだけです。ここバビロンは、2番目に古い空中庭園がありました。

ネブカデネザル2世が王妃アミュティスのために建造した庭園で、王妃が、イラク北部の山間部の出であることから、王妃がホームシックに掛からないように、山をイメージして作ったものだそうです。宮殿の中に作った階段状のテラスに土を盛って、上から水を流し樹木や花などを植えたもので、あまりの大きさのため、遠くから見ると、あたかも空中に浮いているように見えたのだそうです。今は、庭園を支えた土台部分しか残っていません。電気やポンプの無い時代、それもユーフラテス川からの水を汲み上げ、空中庭園の上から下に水を流す技術、驚きです。

（下記の写真が土台部分、右の絵は空中庭園想像画）



空中庭園を、支えた土台、それは、洞窟を思わせるものです。私が、思わず「コウモリでも居そうですね」と言うと、ガイドさんは「コウモリは居ませんが、確か「フクロウは居たと思います。」との答えが返ってきました。私は、この答えにある聖書の記述が思い浮かび背筋が凍る思いがしたのです。

続く